

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者: 80歳代 男性 要介護4

病名: 慢性硬膜下血腫の術後

利用サービス: 入所

経過: 令和4年10月下腿浮腫と胸水貯留あり、検査入院。早期胃癌を指摘、手術された。令和4年12月全身の廃用あり、回復期病院へ入院となった。入院中継続した硬膜下血腫の増大があり、再度急性期病院へ転院。令和5年3月に廃用改善目的で回復期病院へ再入院となった。3か月が経過し緩やかに能力向上するも自宅退院困難にて次施設入所までの間、運動継続目的で令和5年6月当施設へ入所となった。

内 容

胸水貯留、下腿浮腫、手術により全身性の廃用を認め、運動継続目的に入所された。回復期入院中から易疲労性、易怒性あり負荷量の高い運動は拒否しており、臥床希望も強く認めていた。リハビリも拒否し積極的な運動は行えていなかった。車椅子ベースでの生活を受け入れており、目標などは訴えていなかった。

積極的な運動を行う前に関係性構築に努め、好きなことを話すことから始めた。植木が好きで回復期のリハビリでは外へ見に行っていたことを教えて頂き老健でも同じように見に行けないか、違う環境ではあるが、少しでも植物に触れることが出来ないかの検討を行った。

植木以外でも「外へ行きたい」という希望が強くあったことから、リハビリでは庭へ誘導し庭の手すりを使用しながら起立練習から始めた。また、車椅子の自走を自主トレとして導入し好きなタイミングで外を眺めに行けるよう支援した。

徐々に離床時間が延長し、自ら「足の力をつけたい」「しっかり噛んでご飯を食べたい」という目標を表出するようになってきた。リハビリ以外の時間に立ち座りや歩く自主トレをスタッフと行うことにも同意あり。いまでは自らスタッフに声をかけ、運動に取り組む様子を認めるようになった。離床時間の延長、運動に取り組めるようになったことから口腔器官の筋力向上し、食形態がペースト食からキザミあんかけへと変更した。

現在も「また歩けるようになりたい」と希望があり、自主トレとリハビリに積極的に取り組まれている。